

～ 保護者の皆さんからの声 ～

悩み その1

野菜を色々工夫して分からないようにしても食べてくれません。

どうしたら野菜を食べられるようになるのでしょうか。



悩み その2

まだスプーン等が上手に使えず手を使って食べることに。

野菜やお魚、苦手なメニューは食べないこと。



悩み その3

学校の給食はほぼ食べているので心配はしていません。

しかし、家だと、みそ汁やツナなどマヨネーズのついた生野菜は喜びますが、肉のつけ合わせなどの野菜は「いらないよ～」と残してしまいます。



悩み その4

学校の給食では、栄養バランスやカロリー計算などしっかりされていて、お野菜などもたくさん色々なメニューに出されていますが、家ではいろいろ工夫をしても学校給食みたいにカロリーやバランスの良い食事がうまくとることができていません。

お野菜などをたくさん取り入れることが難しいところです。



悩み その5

野菜が苦手で困っている。



うちも同じような悩みがある…。みんなどうしてるんだろう。



本校が考える 支援の仕方・子どもたちの行動の捉え方

本校で学んでいる
子どもたちは
『ゆっくり時間をかけて
成長している』という
特性があります。



「他の人と同じことができるようになってほしい。」「いつになったらできるようになるんだろう。」という気持ちになることが多いと思います。

しかし、子どもたちは少しずつでも、確実に成長する力を持っています。

楽しい食事の時間にするため、焦らずに見守っていただけると幸いです。まずは担任にご相談ください。給食時の目標を立てて、支援方法を考えます。

ご家庭でもできることを、学校でも支援していくことで、経験が積み重なり、できるようになっていくと思います。

「こだわり」にも
いろいろあり、
そのお子さんの
障がいの特性から
見られる行動の
一つです。



□味の好み…薄味、濃い味、甘み、しょっぱさ、など

□唇や口の中の感じ方…固すぎる、柔らかすぎる、ツブツブがイヤ、ねっとりがイヤなど

□食器具の感触…金属の冷たい感じがイヤ、木のザラザラがイヤなど

嫌がる原因は一つではないことが多いので、いろいろと試してみる必要があると思います。

最後の一口は、もしかしたら誰かに食べて欲しくて残しているかもしれませんね。

※障がいの特性の一つとして、味覚・嗅覚・触覚・聴覚・視覚が過敏または鈍麻という特性があります。

食事をするために
必要な力があります。
その力が身に付いて
いないと
難しいことも。



関連する悩み
その2

スプーン・フォークを持つために、指・手首・腕・肩の運動機能の発達や可動域が必要です。

食事以外の場面で、練習するのも一つの方法です。食事の初めだけスプーンを使用し、後半は手づかみにしてもよいと思います。

また、食べ物を上手に食べるためには、唇がきちんと閉じていること、舌が自在に動かせることなどの力が必要です。

唇や口の中を触られるのが苦手なお子さんも多く、口のまわりをマッサージしてあげることも支援の一つです。

学校の給食の時間は、
お友達と一緒に食べる
ことで色々なものを
食べることが
できるようです。



関連する悩み
その1・3・4・5

給食では食べられるみたいだけど…という悩みは多いですね。

友達が食べている様子から、「食べてみよう」「真似してみよう」と、『チャレンジすることができる環境にある』というのが、給食の時間でもあります。